



No. 22

93年度東京ブランチ会員登録更新

93年度の東京ブランチ会員登録更新が終了しました。ご協力ありがとうございました。
 今年度は、年次会員 206名、長期会員は新たに9名の会員からお申し出があつて
 123名となり、終身会員3名を合わせ、会員数 332名を本部に報告しました。岐阜S
 CDCから多くの方がブランチ会員となられた反面、自然退会もほぼ同数あり、昨年
 とあまり変わりがない会員数です。東京ブランチ年会報No.10 をご覧になってお分か
 りのとおり、ことしは会員名簿を五十音順としました。

○間髪をいれず申し込まれたかた

3月26日付けで加藤幸江さん、森中聰子さん、渡辺美千代さんからお申し込み
 をいただきました。時間がたつとなにかととりまぎれ、自然退会となることがあり
 ます。事務処理上からも早めの申込書受領がたいへんありがたく、あえてお名前を
 掲載させていただきました。

○申込書コメント欄

申込書コメント欄にメッセージを書いていたいただいたすべてのかたにお礼申しあげ
 ます。レター発行において読み手無反応というのが一番始末が悪く、批判であれ、
 苦情であれ、1行でも書いていただくのはたいへんうれしいのです。

○日本人は大文字が苦手

『河野幸子』はSACHIKO KAWANOか YUKIKO KOHNO か、読みを明らかにするため、
 ローマ字によるお名前と姓を記入していただきました。大文字で、とお願いしまし
 たが、筆記体による小文字混じりで書かれたかたが約25パーセントと多く、日本人
 は大文字を続けて書くのは不得意なのかな、と感じました。

○希望Book Number がブランク

93年は新Bookの発行がないため、既発行のBookのなかから一つを記入してほしい
 とお願いしました。上位7位はつぎのとおりです。

第1位	記入なし	144名
第2位	Book 16	33
第3位	Book 27	20
第4位	30 Pops	18
第5位	Pokt 23-24	17
第6位	pokt 25-27	16
第7位	Book 20	13

たしかに『記入ないときは Book 16』を述べましたが、未記入がこれほど多いとは(43%) 予想をはるかに越え、いささか慄然としました。理由を考えるに、『Book ってなに?』……こういう方は皆無と思います。『Bookは知っているけれど、どれを選べといわれてもねえ。ワカンナーイ!』これがほとんどではないでしょうか。本部には“記入なし”を“Book 16”に読み替えて請求しますが、177 部のBook 16 には本部も仰天するはずで、本部から他のBookへの分散を求められたらOKせざるを得ません。その節には 144名のかた、よろしく。

○記入例を掲載すべきであった

上記以外でも過剰送金、ローマ字欄に漢字またはblank、Mrs/Miss/Mr の記入なし、などの不備がありました。記入例を掲載しなかったのが一因であり、事務局の手落ちであります。次期更新時は申込書の記入例を載せることにいたします。

“第2回東京スコティッシュ・カントリー・ダンス・フェスティバル” 報告

5月1日(土)、東京・千駄ヶ谷の東京体育館において、東京都フォークダンス連盟主催の“The 2nd Scottish Country Dance Festival in Tokyo”が行なわれ、ブランチは東京スコティッシュ・ブルーベル・クラブとともにモデル・セット、司会(岩崎誠司さん)、デモなどで協力しました。演奏はイングランドからやってきたデビッ



写真提供：東京都FD連盟 柴田正宣氏

ド・ホール・バンドが行ない、午前はドクター・イアン・ホール(通訳：岡田昌子さん)による講習会、午後はボールという構成で、役員を含め 1,230名と昨年に劣らない大盛会でした。

第1回よりもダンスのできる人たちが多く、そのうち1曲ごとにフロアがクリヤに

なれば、スコティッシュ・ダンス本来の「ソーシャル」が多くの人に浸透していくもの
と思います。

ランチならびにブルーベル・クラブのデモンストレーションもなかなかのもので
した。イアン・ホールさんの指導法が徹底していたため、モデル・セット活躍の場が
なく、朝はやくから意気込みいっぱいでもり込んできていただ各グループの方にお詫
びします。日限に余裕がなかったにもかかわらず、9グループから『ランチの要請
なら出るよ』とふたつ返事で出場OKがあったのはたいへんありがたく、感激いたし
ました。お礼申し上げます。

東京ランチレターへのコメント

クレメント篤子

クレメント篤子さん（在スコットランドの東京ランチ代表者、ビル・クレメント
氏夫人）から、ランチレターNo.19-21の内容について、以下のコメントが寄せられ
ました。

○『RSCDS Bulletin 概略』の出版物(No.19 p.3)

1996 Book 39 (ダンス内定済み)。ポケット版36-38 発行

1997 休止年。

1998 Book 40 (ダンス審査中)

とありますが、正しくは、

1996 ポケット版Book 36-38発行のみ。

1997 休止年。

1998 Book 39 (ダンス審査中)、です。(事務局のミス。おわびします)

○『かつて公表・公刊されたモダン・ダンスを、ソサエティがBookに再録するのはコ ペルニクスの転回』(No.19 p.8)

ソサエティの活動の一つは、ご存じのように伝統的な踊りの継承です。The
Eightsome Reelが出版されたのは、踊りが作られてから約40年後でした。踊りが40
-50年経ったものは伝統的になりつつあるわけで、ソサエティから紹介するだけの
ことがあると思います。

○『スコティッシュ・アート・カウンスル』(No.20 p.6)

これはスコットランド全土にわたる踊りの団体が始めて一同に会したもので、
RSCDSはその一つです。ほかにはInternational Folkdance Group, Ceilidh Music
& Dance, Hebridean Dance, Folk Ensemble, Highland Dancingなどの代表者が出
席しました。セミナーは一日で、ゲール語とその伝統芸能の保存・育成、ならびに
ビル・クレメントによるスコットランドの踊りの歴史的発展についての講演が主体
となり、小グループに分かれての討議が行なわれました。お互いの活動について情
報交換ができ、非常に有益であったということです。

○『男性の服装はいかにあるべきか』(No.21 p.4)

ビル・クレメントの解説を加えて、別項のとおり述べましょう。なお、彼はこん

ど日本へいったとき、Highland Dressとその着方をレクチャーしてもよいといっています。

男性の服装について

ビル&篤子クレメント

ワイシャツ……細かいストライプで、キルトの色にマッチしたソフトカラーならよい（これはキルトを常用しているScotsの例）。軍隊での規則、および1950年代にソサエティからInternational Teamsを外国に派遣したときの規則では、ネクタイ着用時は長袖、ノータイでオープン・ネックのときは袖を肘まで折り上げるようになっていた。

ベルト……昼間でもフォーマルの場合(Day Formal Jacket with Silver Buttons)には黒ベルトに銀バックルが使われる。それ以外、昼間は茶色のベルトにBrassバックルが着用される。ただしこれは一般的なScotsの例。RSCDSでも昼間ベルト着用を見かけるが、これを間違っているとはいえない。ベルトはあくまでアクセサリで、キルトのずり落ち防止のためのものではない。

スポーラン……毛のついたものはFormal Evening用。最近のヤンガーホールは（残念ながら）Formalではない。皮製はInformalで、昼用。もともとキルトにはベルト通しはなかった。したがってベルト通しを使うかどうかは、本人の自由。昼夜兼用のスポーランもあり、これは毛の本体に、皮のエッジとフラップでできている。

ホーズ……白を履くようになったのは、テレビ番組で見栄えがいいよう、ダンサーたちが白のホーズで登場してからで、それまでは色ものかダイスであった。伝統

ロバート（ボブ）・キャンベル

がんとの長いたたかいの末、93年2月26日に亡くなった(Boston Branch Newsletter "The Tartan Times" May-June 1993)。指導者として、カナダTACの役員として活躍し、多くのポピュラーなダンスの作者であり、Tourneeなど斬新なフォーメーションを考案した。カナダSCDの大きな光りは消えたが、ボブ・キャンベルの美しく流れるようなダンスは、忘れ去られることはない。

RSCDS Bookは	Hamilton Rant	Book 22
	Middleton Medley	22
	Glasgow Country Dance	23
	Diamond Jubilee	31
	From Scotia's Shores	Leaflet
	Frae A' The Airs	Leaflet

をボブの名で残しており、その他Let's Have a Ceilidh, Riggs of Corn, Australian Ladies など多数の作品がある。

重視派は、いまでも白は絶対に履かない。色ものはベージュがもっともよく使われ、その前はグリーンかブルーであった。ちなみにビルが属するDuke of AthollのPrivate Army, "Atholl Highlanders & Officers"はアソル公爵をふくめて、赤地に細い黒の入ったホーズを履くが、これは150年間ほとんど変わっていない。フラッシュ……赤ならOK。タータンの色にかかわらず、もっとも一般的に使われる。

要するに、Highland Dressはその時代時代でFashionが変わっており、これからも変わるであろうということです。たとえば、30-40年前、キルトに茶色の靴というのは考えられないことでしたが、ある人が昼間、スポーラン、ベルト、シューズを茶色で統一したのを見て、『ああ、なかなかいいねえ』ということになり、多くはないが、茶色の靴を履く人が出てきたという具合です。いまでこそスコットランド中でHighland Dressが着用されていますが、Lowland (Glasgow-Edinburghから南方)で結婚式やサッカー・ファン、ラグビー・ファンが着るようになったのはここ30年程のことです。そのため、きちんとしたキルトの着方を知らない人が多くなっているのは残念です。

新譜紹介

つぎの3種類のテープ、いずれも東京ブランチ事務局に入荷済みで、ご注文をお待ちしています。ただし、どのテープもケースの蝶つがい部分が弱く、欠陥ケースとなっているものがあります。日英のカセットテープ品質にたいする考え方からくるもので、解決のしようがありません。テープ本体の品質に変わりがないため、ケースについては目をつぶってください。

ご注文方法：郵便振替で『○○テープ□本希望』と書いて

振替口座番号 東京6-64023

加入者名 RSCDS東京ブランチ

までお申し込みください。いずれも送料込みです。

○Music for Book 16.

ボビー・クロウ・バンド演奏のBook 16用テープです。別項のビル・クレメントさんの記事にあるRSCDS最新録音のものです。テープではバンド・メンバー名のクレジットがないので、下記に記しておきます。

Bobby Crowe1st Accordion	James LindsayPiano
Edward Galley2nd Accordion	Dave BarclayBass
Ron KerrViolin	Malcolme RossDrums

ご注文略号：Book 16 テープ。¥2,000

○The Crystal Collection.

レスター(Leicester)ブランチが、15周年を記念して10曲入りのダンス・ブックをつくり、同時に全曲演奏のテープも制作しました。演奏はLothian Band。このバ

ンドらしい軽快な演奏です。ダンスのタイトルは、

Joe Foster's Jig (6x32J)	Mid Fodderletter (4x32S)
Dick's Dram (4x32S)	Borders Revisited (4x32R)
Just a Dance (8x32J)	Mrs Sybil Shaw (8x32S)
David's Fancy (4x40S)	Young Wilson's Reel (4x32R)
Sparkenhoe (1x64R)	Inverugie Castle (32S+32R)

ご注文略号：レスター・テープ。¥2,300 (ダンス・ブックつき)

○Music for Scottish Dancing.

RSCDS Book 4およびBook 6用音楽で良質な演奏をしているNeil Barron バンドのもので、RSCDS の標準テンポよりもやや早めです。演奏曲はつぎのとおりで、"Hooper's Jig"を踊りたくても、ノイズだらけの音源しか持っていないグループは、ぜひお求めいただきたいと存じます。『Set of 何々』という演奏は広い用途があり、このテープを活用していろいろなダンスを踊ってください。

Major Ian Stewart (8x32J)	Set of Strathspeys (8x32)
Reel of the 51st Division (8x32R)	Set of Reels (4x64)
Hooper's Jig (8x32J)	Set of Reels (8x40)
Set of Jigs (8x32)	6/8 Marches
Set of Reels (8x32)	4/4 Marches
Waltz	

ご注文略号：ニール・バロン・テープ。¥2,000

書評 — RSCDS マニュアル

オーエン・メイヤー

英国London Branch が発行するNewsletter, "the reel"から、同紙の編集者 (Mr Andrew Kellett)の了承を得て、ブランチ会員の興味を引きそうな記事をブランチで日本語訳してみました。これからも興味あるニュースは、そのつど要点なりをお知らせできると思います。

"Won't You Join the Dance?" は、スコティッシュ・カントリー・ダンスのバイブルとして敬意をもって親しまれていたが、長い間絶版となっていた。今やっと、私たちはこれに代わる、実にわかりやすいマニュアルを手にすることができたのである。各ポイントは簡潔に説明されていて、たいへん読みやすい、というのがマニュアル全体にたいする私の印象である。

このマニュアルの最重要部分は、いうまでもなくSCDをSCDたらしめている、ステップとフォーメーションにかんする章である。ここにはくもりのない明瞭な言葉で、すべてが説明されている。このセクションだけでなく、あいまいさが残らないよう、マニュアル全体の執筆に多大な時間と労力がはらわれたことは明白である。ありがたいことに、WYJTD?でやや滑稽に見えた足のイラストがなくなった。代わりに明瞭な解説つきでシンプルなフット・ポジションの記述がある。考え得るすべてのフォー

メイションが、明瞭な指示とわかりやすいダイヤグラムで示されている。ただし意外なことに、問題になりそうな小さな誤りも一つ二つ見受けられる。Allemande をスタートするときの解説で、右外の方向にダイヤゴナルに動け、というところなどはその一例である。

特定のダンスにかんする注記が、章として残されているのは喜ばしいことである。説明があいまいであったり、十分にクリアでないため、なん曲かのダンスはこんにちけっして踊られることがない、と断言できる。永年にわたってクラスに出席してきた私たちは、注記の有無によって踊り方を変えることがしばしばあった。ただし、こういう古い踊りについては、あまり教条的になり過ぎないで、べつの解釈もあり得るし、それを必ずしもすべて誤りとするべきではない。

スコティッシュ・ダンスの音楽史についての章は、とくに魅力的である。トラディショナルであれモダンであれ、楽しく豊かな曲が聞けるのは、私にとってダンシングの楽しみの一つである。ダンシング中、音楽をまったく聴いていない人がいかに多いか、しかも（罰当たりにも）踊りにまったくそぐわない曲を演奏するバンドがあるとは、実に嘆かわしい。私は、いつも『ダンシングとは音楽を身体で表現したもの』を忘れないようにしている。私はこの章が、音楽への関心を深め、これまで不足していたガイドダンスとして役立つことを願っている。

SCDにかんする文献はそれほど多くなく、このマニュアルが文献として加わることは、SCDを愛するもの、そして世界中にSCDの“福音”を広めようとするものにとって、極めて貴重である。私たちはつぎのことをけっして忘れてはならない。つまり、SCDをもっと好きになりたい、その熱情を分かち合いたいと思っているけれども、資格をもった指導者がおらず、少しの知識しかない人が大勢いる、ということである。そういった人たちにとって、マニュアルの“Hints”の章はどんなにか有益であろう。指導のポイントは、資格試験で常に習得されているが、公認資格指導者でさえ忘れがちなのである。

ひとつ批判しておきたいことは、マニュアルの体裁である。リング・バインダ形式となったことに、賛否両論があろう。ページ差し替えができ、新たにページを加えられるようにとの目論見なのであろう。もうひとつの利点は、各ページがフラットな状態で読めることである。しかしながら、長く使っているうちに孔が破れ、重要なページの欠落が考えられる。

ただし、これはそれほどこだわることではない。もっとも重要なのはその内容であり、ごくわずかの例外を除いて欠点はない。マニュアルに関係したすべてのすべての人に、待ち望んでいました、よくやってくれました、と祝いのあいさつを贈りたい。

(Book Review: The RSCDS Manual by Owen Meyer, from London Branch
Newsletter "the reel" No.203 Feb-Apr 1993)

オーエン・メイヤー氏はロンドン・ブランチ、デモンストレーション・クラスのティーチャーです。

ソサエティの音楽が、いままでに数多くのスコティッシュ・カントリー・ダンス・バンドによって録音されてきたのは、ソサエティにとってたいへん幸運だったといえるでしょう。

調査出版委員会がレコーディングを行なうためにバンドを選ぶとき、各委員が、参加したパーティ（☆原文は"Dances"。日本語でいうパーティを、スコットランドではダンスという）でよかったバンドを推薦しあうことから始まります。バンドの演奏を聴き、踊った各人の経験から、最終的に三つのバンドに絞ります。本部セクレタリは、各バンド・リーダーに録音すべきブック名を明示し、演奏料の見積書提出を依頼します。ブックによって、録音時間はかなりの差があるからです。（☆見積書から、バンドがいかにか内容を検討したかが知れます）ちなみに、Book 35 の録音は46分半でしたが、最近録音したBook 16 では77分かかっています。見積書提出期限までに、三つのバンドのうち、二つから回答があれば上々といわなければなりません。ソサエティのために、よろこんで仕事を引き受けてくれるバンド・リーダーばかりではないからです。このことを知ると、おどろかれる RSCDS会員が多いと思います。

バンドが独自でレコードを出すとき、どの踊りを録音し、なんの曲を演奏するかはまったく自由であり、好みの、しかも手慣れた音楽を選ぶことができます。ところが、ソサエティの依頼で録音するときは、事情がまったく異なってきます。バンドは録音すべきダンスを指定され、オリジナル曲の譜面どおりの演奏を求められるなど、細かく指定されるからです。とくに古いブックになればなおさらです。

調査出版委員会は、本部セクレタリからバンドの回答をうけとり、どのバンドにするか、最終決定が行なわれます。

近年、レコーディングの数か月前に、バンド・リーダーと調査出版委員会委員長、音楽小委員会委員長との三者打ち合わせが持たれるようになりました。そこではバンド用に編曲しなおされたオリジナル曲が検討され、また、オルターナティブ曲（☆一つの踊りで8回の繰り返しがある場合、最初と最後がオリジナル曲で、中間の6回はふつう3曲のオルターナティブ曲が演奏される）の選曲やテンポについても話しています。

バンド・リーダーは、1回の録音において、場合によっては約40のそれぞれの踊りに合ったオルターナティブ曲を選曲し、バンド各メンバーの編曲を書きあげ、さらにリハーサルをアレンジしなければなりません（☆ほとんどのバンド・メンバーは音楽演奏だけで生計を立てていないので、メンバー全員がやりくりをつけて集まるのは容易でない）。オルターナティブ曲が、すでにほかのダンスのオリジナルとして使わ

れていることもあるため、バンドがどんな曲を使うのか、慎重にチェックしなければなりません。また、最近までオルターナティブ曲はすべて著作権のないことと定められていましたので、選曲は容易なものではありませんでした。

数年前、私はいくつかの曲が何回となくオルターナティブ曲として演奏されているのに気づき、ジョン・ドゥルーリさんの協力を得て、ソサエティのレコーディングに使われた曲をコンピュータに登録し、どの曲がどの踊りに使われているかをリストアップしてもらいました。いまではこのリストが録音を依頼したバンド・リーダーにわたされ、大いに重宝しています。

レコーディングには、調査出版委員会から委員長、32小節ごとにテンポをチェックするためストップ・ウォッチを手にした委員1人、音楽小委員会からは2人の委員が演奏曲を一音ずつ追ってチェックするため全楽譜を持って立ち会います。

過去において、バンドは必ずしも標準のテンポを前もって知らされていたわけではありません。演奏曲がむずかしければ、バンドはソサエティの希望どおりのテンポで演奏できないこともあり、また反対に、聞くにはよいけれど踊るのには速すぎる、という場合もありました。しかし、今ではめったにこのような問題は起こらなくなりました。

ソサエティには標準のテンポがあり、これはダンカン・マクラウドさん(★委員長在任期間 1978-87、その前の委員長はミス・ミリガンで 1923-78)が調査出版委員会の委員長であったころから変わっておりません。ただし、調査出版委員会は、録音される曲が、速度だけでなくどんな踊りなのかを、常に考えておく必要があります。標準のテンポとは、

Reels & Jigs : 32小節 - 0分 34 秒 8 x 32小節では 4分32秒

Strathspeys : 32小節 - 1分 01 秒半 8 x 32小節では 8分12秒

これにパウ&カーティシーとして5秒が加算されます。

現在、バンドは上記のテンポを前もってめやすとして知らされていますので、この時間の±10秒以内に収まるよう、求められます。たしかに一、二度この幅を越えたことがありましたが、上記の時間に近づくよう演奏し直して、それでも受け入れざるを得なかった経過があります。理想的には、指導者が速度可変型のレコード・プレイヤーかテープ・デッキを持っていれば、この問題は解消できます。

バンドの準備が済み、サウンド・エンジニアがバランスをチェックし終わった後、いよいよレコーディングとなります。ミュージアリアル・ジョンストンさん(彼女は最近

のソサエティ全音楽の編曲を担当しています)は、録音中に音符、和音の間違えば、録音室でそれらを指摘することができる有能な人材です。

録音が完了すると、サウンド・エンジニアが必要な修正を加えてマスター・テープを編集し、テスト・テープをバンド・リーダーと本部に送ってきます。これをレコーディングに立ち会った委員の間で試聴回覧し、チェックします。同じように、テストLPも入念に試聴され、レコードのプレス過程で生じるキズをチェックします。レコーディングがうまくはこび、音楽小委員会を含む調査出版委員会の全員が承認した後、レコードとカセット・テープの生産に入ります。

いちどソサエティの録音を担当したバンドは、その後もソサエティの録音を依頼されるのが通例です。

調査出版委員会は、5人の委員とソサエティの正副両チェアマン、前チェアマン(☆退任直後の1年間のみ)、それに古文書担当委員 (archivist) 1人の計8~9人で、広範囲にわたる膨大な仕事をこなすわけで、けっして多い人数とはいえません。

最近の録音はBook 16 ですが、これにはまる2日間かかり、このあとにテープとレコード両方のチェックがありました。レコード・ジャケットならびにカセット解説カードの印刷内容の準備・校正等、興味ある仕事はいえ、すべてに時間を要し、これらは委員会委員による奉仕で支えられています。

いままでのレコーディング・バンド名と回数

Bobby Crowe	10	Jim Macleod	2
Neil Barron	2	Kenny Thomson	2
Colin Dewar	2	Alastair Wood	2
Colin Finlayson	2	Ron Gonnella	1
Rob Gordon	2	Jimmy Lindsay	1
Alastair Hunter		The Olympians	1
& the Lorne Band	2	Andrew Rankine	1
Lex Keith & Fiddlers 3 + 2	2		

何人かの会員には興味あることかと思われまますので付記しますが、Andrew Rankine の録音は、彼が米国に移住する直前に行なわれ、スコットランドでのラスト・レコーディングとなりました。

1993年のCD 2枚は、既録音マスターから制作する、というのが調査出版委員会の方針です。

ソサエティのレコード、カセットがどのように制作されるのか、本文が会員のご理解に役立つことができれば幸いです。

1992年12月 調査出版委員会委員長(1987-1992)

ビル・クレメント記/クレメント篤子訳(★印は訳者注)

ミニ・ニュース

○本部から寄付のお願い

「ソサエティ本部事務室の改造が終了し、内装を一新した。となると、机、いすなど備品のみすぼらしさが目だってしまった。新しいものにしたいが、源資不如意のため各ブランチはじめ RSCDS会員のご厚意を賜りたい」と、ソサエティ・チェアマンから要請されました。これに応じてくれた会員の名前と額はBulletinに載せるとのこと。趣旨にご賛同される会員は、『本部への寄付』を明示してブランチ事務局にご送金ください。(郵便振替が便利です)

○香港でSCDコンテスト

香港 St Andrews Society 主催のHighland Gatheringで、SCD Competition を行なうとの案内を受領しました。

日 時 93年10月10日(日)

場 所 Stanley Fort, Hong Kong

ダンス曲 RSCDS のStrathspey 1曲と、ReelまたはJig 1曲

申込み締切り 7月31日

連絡先 Mrs Marie Rogers, 8A Wan Chi Mansions, 18 Shan Kwong Road, Happy Valley, HONG KONG

出場ご希望のグループは、申し込み用紙(ブランチ事務局にあり)を直接上記連絡先にお送りください。

○9月25日 SCD大会の講習曲内定

全国レクリエーション大会スコティッシュ部門の講習会(午前中)のダンスは、Sugar Candie(32S), Flowers of Edinburgh(32R), Machine without Horses(32J)の3曲を内定しました。午後は東京都FD連盟によるスコティッシュ・パーティとなります。

○マニュアル追加注文受けと返金

「マニュアル」(本レター p.6-7参照)は 100部完売の後、再注文して15部ほど

在庫があります。入手ご希望の方は、ブランチ事務局まで郵便振替でお申し込みください。1冊 1,500円。

100部完売しましたが、事務局のミスで1冊 1,800円としてしまいました。差額 300円は郵便切手等でご返金いたします。お心当たりの方は事務局まで『何冊分』と、お申し越しいただきたくお願い申し上げます。

○ソサエティAGMへの代議員

ことしのソサエティの年次総会は、つぎのとおり開催されます。

日時 93年11月 5日(金)～ 6日(土)
場所 Assembly Room, George Street, Edinburgh
ホスト Edinburgh Branch
申込み締切り 93年10月 2日

東京ブランチ代議員(Delegate)として出席ご希望の方は、事務局までお申し越しください。折り返し申込書をお送りします。

○三つの“T”の解答

ブランチレターNo.19 p.6の梅木仁司さんレポートで、ダンス伴奏にとってもっとも大切な三つの“T”は、バーバラ・マコーエンさん曰く『Tempo, Tempo, Tempo』であると、梅木さんから聞き出しました。バーバラさんの場合は、一定のテンポで演奏しながら、いかにダンサーの気分を盛りあげるか、そこにポイントがある、ということなのでしょう。

RSCDS 東京ブランチレター 1993.7.20発行
RSCDS 東京ブランチ事務局
222 横浜市港北区磯原北 1-28-25
鳥山豊喜 ☎045-433-4623